



特定非営利活動法人

平成 18 年秋号 NO.31



<http://nepai-mika.jp>

mika@ssr.co.jp

ネパール・ミカの会

平成 18 年 9 月 15 日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36 tel042-791-0602



「約束をはたす」(十年間を振り返って)

NPO 法人ネパール・ミカの会
理事長 齋藤 謹也

私達は、旅人。ネパールを度々旅する者であり、それは、10年間かわらない。ただ違っているのは、「教育支援」というキーワードがあり、私達を待っていてくれる子ども達と人々がいる事である。

事務所(根拠地)が向こうにあるわけではなく、常にヌルプ、ラマ氏の世話によって、校舎が建てられ、備品や図書が前もって用意されての恵まれた内容の濃い旅を出来る喜びが、毎回ほぼ同じ行程であっても行こうとする意欲が働いての十年間であった。それを国内において、理事会、事務局、会員が支えて押し上げてくれている。

私たちはNPO法人として法人格をもって活動していても、専従職員がいるわけではなく常にアマチュアであり、アマチュアリズムに徹しての十年間であったように思われます。ただ、合言葉は「目(ミカ)から目へ」「手から手へ」「ささやかに、しかし誠意をこめて」などであったように思われます。

ささやかではあるが、心をこめてプレゼントをしているという姿勢は、常に「相手の要望、必要とするもの」を先としていく事につながり、支援の根幹があるように思われます。又、「約束をはたす」という事も重要な柱であったと思われのです。「今度来た時には専用図書を贈ります。わずかですが10年間は続けます」という約束から、トリバン大学タンセン校(理系)と結びつきタンセン市全般へと広がった図書支援。

雨漏り校舎見学から、「この程度なら直してあげましょう」と約束して始まった釈迦生誕地ルンビニ支援。とうとう中学、高校新設までひろがりました。素朴な約束を必ず実施していくことが、ネパール・ミカの会への信頼の輪になってきたように思われます。約束したことは出来るだけ次回の旅までに実現するように走り出す。旅人ではあるが約束を守る旅人であったように思います。

そして10年。ネパールにこだわってきた私たちではありませんが、そのこだわりが、いつまでも臭みを発しなかった理由は、素朴な形、約束をしたことは守ろうとする姿勢があったように思います。ただ、最近気になっていることは、会員の固定化、高齢化。今後の十年、どうそこを切り開き、活動する仲間を広げていくかが、課題と思います。



ネパール国交樹立五十周年の記念すべき年に総会に引き続き来賓としてご出席頂き、ご挨拶を頂いた伊藤日本ネパール協会会長。九月十六、十七、十八日は記念イベントが秋葉原コンベンションホールで開催されます。



「創立十周年記念の集いに寄せて」

実行委員長： 今村 旭



古代蓮の茎を軸にしたランプ
10周年記念のオリジナルです

八月二十七日という日は私にとって生涯の思い出に残る特別な日となった。

今年の秋で七十歳になる私は還暦を迎えた六十歳の頃、何か新しい事を求めてふらふらと迷い込んだのが我がネパール・ミカの会でした。入会当時は今より十歳若く体力も気力も十分な活力があり、突然に多くの信頼する仲間と出会い、間もなく初のネパール訪問を経験し、あれよ、あれよという間にパスポートはネパールのスタンプでいっぱいになってしまった。本業の仕事も続け、また、職域団体での役員も永年勤め上げ、毎週のように都内の会議に出向いて取って返してミカの会の各種の活動に参加するという極めて多忙な時間を過ごし、老いを迎えた十年があつと間の出来事でした。

途中では生まれて初めての入院生活を送るという状態にもなり、決して平坦な道のりではありませんでした。だが、八月二十七日は元気に皆様と共に責任の一端を果たせながら参加することができ、感無量の思いがありました。

昨年の十月の理事会で我が身の未熟さを知りながら実行委員長を命ぜられなぜか引き受けてしまった。以来、ミカの会の仲間の個々の持つ様々な能力に助けられるのですが、最初の頃は夜眠りに入る前あれこれ頭の中でイメージを練り上げ、朝また目覚めと共に考えを巡らし、毎日のように十周年のことで明け暮れた。

今年に入り五月の総会を経て、ラマ氏と再会した頃から組織としての動きを具体化した。結果として終わってみれば、適材適所というか、その場面にこの人ありの、誠に天の配材の妙を感じたものでした。

式のオープニングの場面での、日本とネパールの両国旗にスポットライトを当てて暗い場内でヒマラヤをイメージした笛の音の中での数分間に各々の会員の十年の関わりを心に描きながらスタートするという演出構想には特にこだわった。ここに至るまでの準備の段階で特別にお世話をいただいた人々の名前を挙げて記憶に留めたい。

会の方向性を常に示した大黒柱の大谷さん。
記録を集め、映像を仕上げた右に出る者無しの IT 部長の加藤誠一さん、和田さん。
企画から進行を分秒単位で作りに上げた名人、齊藤孝さん。涉外から会計まで広く活躍の青沼さん、松浦さん。
舞台の花の一切を任せた岩田さん、
パンチャ・ラマさんの橋渡しの加藤雅子さん。
心の灯をみごとに工芸品に仕上げてくれた坂育夫さん。
本気で照明や音響に取り組んでくれた土田さん、伊藤さん。
タルチョの飾り付けの小林一さん。
何でも気軽に引き受けてくれた山下さん。
美しく名司会の両名の中野さん、佐藤富美子さん。
受付でにこやかに対応の沼野さん。
物販コーナーの小林公子さん、加藤末子さん。
そして、早くから調理して本場仕込みの美味しいネパール式モモを作ってくれたゴビンダさん、山内さん、浜崎さん。

他にも皆様は快く働いていただきもう何も言う事はありません。一致協力、手作りのミカの会らしい上出来の記念行事でした。又、支援金のご寄付をいただき、多くの会員の参加をしてくださったソロプチミスト・町田・さつきの皆様には本当に感謝の念でいっぱいです。多くの方々のご協力で会は成功のうちに終わる事ができ、有り難い事でした。

日本とネパールの結びつきが、さらに強く心に残り、遠くネパールから招いたヌルブ・ラマ氏にも大変喜んでいただき、苦勞の甲斐がありました。

久しぶりにお会い出来た会員や、最長老の元気一番の大石トキさんも会を盛り上げて呉れ喜ばしい限りでした。これからは何事もこの経験を生かし理事長以下全会員でさらに新しいミカの会の歴史を創り上げていこうという決意に辿り着いた素晴らしい十周年の集いでした。

ここにご協力いただいたすべての皆様は心より感謝申し上げますと共にミカの会の益々の発展を祈ります。ナマステ。

10周年記念式典ヌルブ・ラマ氏挨拶

ネパール・ミカの会の10周年にあたり、ネパールから式典に参加できてうれしいです。まず、ネパール・ミカの会の会員の皆様、ご協力してくださる皆様、バックサポートして下さる皆様、ネパールに支援して下さる日本の皆様に心から感謝申し上げます。

私は東エベレストの麓の山奥に生まれました。高校まではその村の学校に通い、大学に入ってカトマンドウの町に行きました。人々の生活はきびしく、大学の勉強だけでは将来食べていけないと感じ、大学の勉強と共に、日本語の勉強も始めました。卒業してルンビニ開発公社（お釈迦様の生誕地）で仕事をするようになりました。日本の企業とか会社なんかですと、5分、10分の話ですむところがネパールでは1日ばかりというような状態でした。大学を卒業したばかりの私は、ずっと開発公社のデスクにいて何もしないということではできませんでした。

ルンビニのまわりの村々を歩きながら、すっごく暑いですから木の下に座って、まわりの様子を見ていました。私の生まれた3400mの山奥には校舎がありましたが、ルンビニはバスは通っているけれど、まだまだ校舎がなく、木の下で勉強していました。雨が降っても、風が吹いても学校は休みになりました。暑すぎて木の下以外では勉強できないけれど、そこを村人や牛が通ったり、、、その状況を見て、何とか出来ないかと思いましたが、私一人の力では何もできず、考えているばかりでした。

その後、私のおばあさんが海を見たことがない、飛行機に乗ったこともないということで、おばあさんと親二人をつれて、南インドを1ヶ月旅して、カトマンドウに戻ると、一通の手紙が来ていました。

「ルンビニに雨漏りの学校があるが、どうやって修復できるか」どこからの手紙かもわからないし、漢字があって、まだ手紙もしっかり読めないし、で何とか学校をさがして、あればそこから連絡しますと、2カ月後に返事を出しました。ということから始まって、それから坂さんがルンビニに来て、学校の修復を始めましたが、初めてのことで、どうやっていいかわからないことばかり。バケツを借りたり、まわりの人々に助けてもらって、やっと屋根が出来たんですけど、元々壁なども弱いものですから、ここを直せばあっちも直さなくてはという状況でした。そんなルンビニと今のルンビニは大きく変わりました。

私が今行っても、「あっあの人、日本人と関係している人、言えば学校を建ててくれる人だ」と言われたり、時々日本人と言われたりすることもあります。ミカの会との出会いが、本当に小さなことから始まって、このように日本にも自由に来れるようになると共に、私の人生にとっても非常に大きく変わったところでした。

実は、私が前からやりたかったことは大きなことではなく、小さな事業を少しずつやりだすことが大事だと思います。大きな事業は政府の力でやるべきだと思いますが、ただそれでは一般の人々は自分たちが支援したことを感じることは出来ないと思います。

ミカの会のような会が沢山できて、自分の目で見る、そこで感じる事が大事です。子どもたちが校舎に入れないということで、校舎を建てる、ところが元々子どもたちが多くですから、一年生が300人も入ってきて、また校舎が足りなくなるというくらいに、まだまだ沢山の子どもが学校に行っていない状態です。ですからミカの会の皆様が、いつもささやかとおしゃっている支援は、ネパールにとっては大変大きな支援になっています。今回もルンビニ地区に行くと、朝6時にドアをたたいて、今度は私たちの学校の番だという話になりました。

ミカの会の一番いい所は、会の方々がネパールに行って、自分の目で見る、そういう人たちと話をしたり、食事をしたり等の交流ができることが一番大事だと思います。

今まで沢山の日本の方々からネパールに支援をいただいています。ネパール人に騙されたという大きな問題もあることはあります。

最初は大きな支援を行っても、次の年は、、？というようになると最初からなかったことと同じで、ネパールももちろん悪いですが、ネパール側の問題ばかりではないと思います。支援をするということは、それを継続していくことが一番大事なところだと思います。

ネパール・ミカの会の方々が年に2回多いと3、4回くらいもネパールに来ていただいて、ルンビニ、タンセン時々ポカラというように同じコースを廻って、理事長なんかは10数回も（私には疲れるんじゃないかなと思われるくらい）、ということは、私たちネパールにとっては、うれしいことです。



ネパールは物が足りなくて非常に困っている状態ですが、私がかつて数年、日本に来ていて感じる事は、物があっても困ると言うことです。特に日本の若い人たち、子供たちが我慢をする力を失っていることを少し感じました。

こういうところ、問題と直面することが出来ない。ですから色々な大きな問題がおきていること、このことで、今後は、ネパールが支援を受けるだけでなく日本へも支援が出来るのではないかと思います。

どういう事かと言うと、人には生きる力があるということを経験した日本の子供もたは理解していないんじゃないか、何でも当たり前前すぎる、タクシーで学校へというような事が当たり前になっている。ネパールは不便ですが、ミカの会のような団体と子供たちがグループを組んでネパールに行ってみて、家にはドアもない窓もない、こんな所にも人は住んでいる。生きています。

こんなに暑いのにクーラーは無い、まず電気も無いです。でもひとは生きていますということを感じてもらっただけでも、今後の日本の将来は随分変わっていくのではないのでしょうか。山を見て不思議な所ですねー、とか、あー、いいですねー、汗を流して、時計なんかいらなくて一緒に感じ、実際そこまで行って、ちょっとだけ近づくことだけで、随分力になるのではないかと感じております。

今後とも皆さまと仲良くしながら、まず継続していただくことを大事にさせていただいて、もちろん大変ですが、ネパール各界の方々が心よりこれを受けて、お互いに皆さんと手を結んで助け合っていく事が出来たら、私とネパールにとって、とてもうれしいです。これからネパールの政治も安定していく、これは希望ですが、どうかわかりませんが、でも皆さんと仲良くしながら子どもを一人でも助けるために、お互いに交流支援を進めていく事がとても大事だと思います。今日はありがとうございました。(文責・和田)

会場設営担当事情

理事 齋藤 孝

10周年記念式典では皆様大変お世話になりましたこと深く感謝しています。おかげさまで準備から式典終了まで大変楽しく進めさせられました。

昨年10月の理事会で、10周年記念式典を行うことが決定し、その実行委員長に今村副理事長が選任されました。その際今村氏の顔は引きつっていたように拝見しましたが、それを見て日頃お世話になっている手前、お手伝いしなければならぬと使命感を私なりに感じました。

その後、支援の旅時やPC教室時には記念式典の話題が出ていましたが、今年6月13日の理事会で、正式に実行委員会の行動開始が決まり、役割分担の議事に入りました。

ラマ氏招聘・会場時間・余興などの審議の後、部会を作り責任者を決めることになり、3つの部会を決めました。式典でのメインイベントが「10周年の歩み」と決まり、その制作部。多方面への交渉などを行う、渉外部。そして、会場設営運営部となりましたが制作では今までの経過などから、加藤(誠一)氏が快く申し出て頂き、続いて渉外は多方面に顔が売れている青沼氏が決まりましたが、会場設営運営では、どなたからも声が上がりませんでした。私の隣に居た今村実行委員長は、「声が上がりませんので、私から指名させていただきます。齋藤 孝さん如何でしょう」と言われ、一瞬ドキッとしました。まさか私にという思いと、その時点では仕事で靴のネット通販事業開設準備に追われている最中で、オマケに毎年商店会で秋に行っている「町田大道芸」の企画も重なりましたが、思わず了解しましたと答えてしまいました。私の大好きなこの会のための黒子になるうとの思いの決意でした。

7月の例会時でプレゼンする為の資料作成の準備をし、コンテンツの作成から入りました。受付・司会・会場レイアウト・プログラム・装飾・展示物・余興・音響照明のコンテンツでそこから細部に分けて作成し、昨年の総会では女性の司会が最高の雰囲気だったのを参考に式典も司会は女性と直ぐ決定し、あとの役割は例会でということにしました。

例会では皆様自らが進んで役割に当たっていただけたことにビックリし、その後多くの提案がなされ大変な感激を覚えています。特にタルチョ・国旗の設営・生花・アトラクションなど細部にわたり連絡があり、音響照明担当者の方は未経験なのに良く研究されていました。

8月の例会では、直前確認となりましたが、ここでも皆様の積極的な行動に感動し27日の式典当日は大丈夫だろうという安心感が出てきました。一番気になったことは限られた時間の配分でした。特に感謝状贈呈が10分の中で十数名となり1部の終了は2部へかなりずれ込むと計算していました。

27日当日は12:00の集合をかけていましたが、早めに会場へ着くと坂副理事長は記念品の準備をしていて、会場内では立派な生花が設営されていたのに驚きました。

定刻に式典開始となり、懸念していた時間配分も「10年の歩み」担当者の段取りよろしく早めに終了で1部は15分早く終了し、余裕の2部開始となりました。こまったのは2部終了時です。実行委員長と共にネパール衣装に着替えて会場に入りましたが、想定外の出来事が生じステージに上げられたことです。今村実行委員長がいつものダンスを踊り始めたとき、私も続こうとしましたが、手も足も出さずダルマ状態になったことです(笑)。

ダンスの練習をしなくては、、、これが盛り上がり、終了定刻17:00を5分上回り17:05の終了となりました。

終了後、緊張感と体の力が抜け放心状態となりましたが、清々しい気持ち一杯になり、皆様への感謝の気持ちも一杯になりました。心残りがひとつあります。それは、会場を動き回りすぎて、挨拶を聞くことができませんでした。

最後に、私の大好きなネパール・ミカの会の皆様へ今回も本当にお世話になりました。皆様の団結力は会の大きな財産ですね。これも在庫管理しましょう。



式典、懇親会を盛り上げて頂いたパンチャ・ラマさん。繊細に、そして勇壮に素晴らしい調子を奏でてくれました。今村実行委員長と齋藤理事

新しい 10 年に向けてのスタート

大谷 安宏

1997年7月、ネパールミカの会設立会にちょっと緊張しながら出席した際、まだ初々しさを感じ、如何にも誠実そうな好青年がヌルブ・ラマ氏との出会いであった。その席でラマさん、沼野さんと三人でレッスン・フィーリーリを合唱(未だに出だししか歌えませんが)、帽子のツバにビスタリ・ビスタリ ネパールと書いて貰うなど、とても初対面とは思えない親しさを感じたのを今でもはっきりと覚えている。

あれから丁度10年、この間、多くの素晴らしい仲間巡りに会い、尊敬する先輩等の指導も受けることができた。また、目標達成至上体質の現役時代を離れたばかり身にとって目標を定め、納期を設定した支援活動の一端に参画できたことはソフトランディングのために大いに感謝している。

創立10周年記念式典の準備は昨年7月の理事会にて今村副理事長が推進PGリーダーに選任後度重なる打合せも、担当メンバーの選任以降は毎週のような打合せも、連日連夜の忙しい日が続ぎ、新しいアイデア、提案などを盛り込み、各担当の真剣かつ誠実な準備作業の状況から「成功は計画8割」の言葉通り手作りの温かい雰囲気での記念式典が開催できると確信していた。

期待通りの式典となったのもリーダーを中心とした見事なチームワークと行動力によるものであると思う。本当にご苦労さまでした。

今年は日本・ネパール国交樹立50周年、また、ヌルブ・ラマ氏が校長のカトマンドゥ日本語学院の創立40周年(昨年40周年を延期)記念事業などネパールでの大きなイベントがあり、これ等に合せて第10次ネパール教育支援の旅(参加者14名)は11月16日～27日に実施する。

また、当会の10周年記念行事としてルンビニ地区建設支援校合同運動会の実施を計画しており、ゲルワニマイ小学校の図書館建設地の視察に加えて、ヌルブ・ラマ氏の妹ジャンモ医師が勤務するルクラ(標高2800mエベレスト街道入口の街)の病院を訪れ、その活躍ぶりを視察することも盛り込んだ例年になく支援の旅になる。

これに先立ち、中間調査を10月5日～15日、加藤副理事長、大谷がネパール入り、先に9月17日より研究テーマ調査のため現地滞在の佐藤富美子会員と合流し、ルンビニ地区初の運動会の実現に向けての運動会々場確認、種目の選定、用具調達の確認等を調査の実施、ゲルワニマイ小学校図書館建設具体化計画の検討、タンセン地区合同図書贈呈式、さらに昨年図書支援の要請を受けている東ネパールのトリブバン大学イラム校の視察など忙しい日程を計画しており、中間調査、教育支援の旅を通じて、また、新たな課題やテーマが見出されることであろう。

この10年間を振り返ると多くの支援先の協力と会員の熱心な活動、そしてヌルブ・ラマ氏の献身的な尽力によって校舎建設・修復、図書支援、計測器、制服の寄贈、奨学金など多くの実績と成果を積み上げることが出来たのも正に「継続は力なり」であると思う。

これからの新しい10年を迎えるに当たり、従来のハード主体の支援からソフト面へ徐々に転換していく支援のあり方についてどのようにあるべきかを考える中間調査、教育支援の旅であって欲しいと考えている。

教育支援 10 年の重み

秋畑 正純

何か大きな仕事を成し遂げるには、10年の歳月を要するようです。英語には10年を単位とするDecadeという言葉があり、日本語でも「10年一昔」と表現します。

10年前の8月にマホマディア小学校の雨漏り校舎と出会って以来、数々の支援をネパール・ミカの会は実施してきました。その間、ネパールは政情不安もありました。日本もゼロ金利時代となりました。郵政省の国際ボランティア貯金はどうなったのでしょうか。

いずれにしても10年という単位は、時代や状況に大きな変化が起こりうる年月なのでしょう。

私は2000年12月に8日間、大谷さんらとネパールにスケッチ旅行に行き、現地でラマさんと知り合いました。ラマさんには大変お世話になり、観光客がめったに行かない場所にも行くことが出来ました。観光というものは、文字通り「光」のところだけ「観る」のですが、それではものごとの本質はみえてきません。そうではなくて「影」のところにこそ、見るべきものがあるのではないかと思います。「影」のところに、この国の隠しきれない「本心」が露頭しています。

「影」とは観光客があまり足を踏み入れない場所で、「影」の部分を見ればネパールがいかに貧しい国であることがよく分かります。

日本は国債を発行しすぎて、国民一人あたりに600万円もの借金があるといわれています。いまにも沈没しそうな大型船のような国ですが、ネパールに比べれば、精神的な豊かさは別にして、物質的にははるかに豊かです。

ネパールでは時間はゆっくり流れます。何事もビスタリ、ビスタリ(ゆっくり、ゆっくり)です。従ってネパールという国は、10年前と現在を比較してもあまり変わっていないと思います。今後10年たっても変わらないでしょう。

貧しい国に対する支援には2種類あると思います。一つは食料や衣料を供給する速効性の支援、これは一過性のもので短期的な支援です。乾いた砂漠に水をまくようなもので、あまり意味はありません。

もう一つは道路や橋をかけて経済のインフラづくりをする支援と教育支援です。これらは遅効性ではありますが、自立を促す点で不可欠といえるでしょう。ミカの会がこの10年、教育支援を行ってきたことは長期的視野に立った支援活動であり、誇れるものであると思います。その矜持は、今後も持ち続けるべきでしょう。

今まではハコもののハード面の支援でしたが、今後は教育の中味、ソフト面をどうするかが課題で、そのためには教育者を育てる支援をしなければならぬ。これは非常に難しいテーマで、考えただけで気が遠くなりそうです。なぜなら、豊饒な現代日本でもこのテーマで苦労しているのですから。

しかし、20年先、30年先のネパールを見据えて、誰かが次の世代を育てなければ、明るい未来は開けません。とりあえず、次の10年に向かって一歩、一歩、ビスタリ、ビスタリでいきましょうよ。

十周年によせて

伊藤 博尊 幸恵

まずは、十周年記念式典の準備、お手伝いに係わった皆様、大変お疲れさまでした。私達は普段なかなか会合やイベントに参加できないのですが記念すべき十周年のセレモニーに出席できたことを嬉しく思います。ミカの会らしい手作りで心温まる内容だったと思います。

私達が会員として仲間に入れさせてもらったのは確か1年半前だったと思いますが二人で最初に例会に出席したとき、進行がとてもスムーズで感心したのを思い出します。それはそれぞれの人が自分の考えや意見を持ちそれを活発に発言していたからです。そしてなにより驚いたのは今後のイベント、バザーの担当を募る時、そこには私が行きます！と皆さん元気良く手を挙げ、次々と決まってくのには本当にビックリしました。正直、ボランティア活動がこんなに楽しそうに出来るって何故？という気持ちさえ起きました。

今回、今まで建てた校舎、寄贈した本などその報告を聞き、又ビデオや写真で拝見しましたが、このように日頃の地道な活動が形になっていく事、そしてなによりネパールの子供達のあの澄んだ瞳と笑顔が皆さんの糧となっているのでしょうか。

ラマさんの淡々としたそれでいて力強く、心にしみ入るようなスピーチにも感動しました。物が豊富であっても殺伐とした日本にいる私達が逆に教えてもらったと痛感し、以前ネパールに行った時に感じた忘れてしまった何かを思い出しました。あの時の感動が蘇りました。今後も学びながら支援の輪にいられるよう、何か少しでもお役に立てればと思います。いつも参加するたびに温かく迎えて下さる気さくな皆さんにお逢いできるのも楽しみにしています。

創立10周年記念行事に参加して

田中 次恵

会員とは名ばかりで、お手伝いなど何もできていないのでお恥ずかしい限りなのですが、この行事に参加してミカの会の活動の一端に触れたように思いました。

10年の歴史の1年1年をひもとくスライドと係った方たちのお話は、何も知らないまま参加していた私にはとても新鮮でその歴史の深さに心から感服しました。

「継続は力なり」を実行しているミカの会の地道ながらも一つ一つきちんと成果をあげている活動はまさにボランティアの見本ですね。自分のできることを身の丈にあわせてやりながら、決して人には強制せず、1人1人がそれぞれに力を発揮している、そんな風に感じました。そしてそんな手作りの温かさはジュッフェパーティーでも遺憾なく発揮されていて、手作りのモモ、築田寺みょうがは本当においしかったです。

Bansuri という笛の音色はどう表現したら良いのでしょうか。高く低く、いくつもの音が重なって一人の奏者が奏でているとはとても思えないほどの深みが私を捉えていました。引き込まれるような管の調べ、それにパーカッションのマーダルが気分を盛り上げていきます。ギターは静かにベースの音を紡ぎ、三者のコラボレーションは本当に聴くものの耳を楽しませくれました。素晴らしい音楽に出会うとなぜこんなに嬉しくなるのでしょうか。時間のたつのがあっという間でした。

ひとつもったいなかったのが、この演奏が食事も済んだ後だったため早く帰られた人たちは聴くことができなかったということです。ネパールならではの楽器や旋律を、来て下さった方皆さんに聴いて欲しかったと心から思いました。

全体を通して貫かれていた心のこもった手作り感は本当に温かく、ミカの会の真髄をかいま見たような気がしました。

創立10周年に思う

加藤 末子

ミカの会に入り早や10年近くの年月が流れ、時の過ぎるのが早いものにつくづく思いました。私が入会したのは確か50代の半ばだったと思います。

色々なイベントに参加して楽しい思い出がたくさん残りました。良き友人にも恵まれ、特にフリーマーケット等の売り子など初めてのことで最初は声を出すのが恥ずかしかった様な気がします。今はベテランかな？

私事ですがこの4年間色々な事がありました。特に悲しかった事はH14年1月12日主人が亡くなった事です。通夜の折、遠方にもかかわらず理事長初め大勢の方がいらして下さり、とてもありがたく思いました。又、会員の方々から励ましのお電話をいただき、とても元気づけられました。メソメソしている暇などありませんでした。

一周忌の折に主人の写真を理事長、会員の皆様とネパール・ルンビニの地に一緒に連れていただき、供養していただきまして、とても感謝致して居ります。無き主人も天国でさぞかし喜んでいた事と思います。その後、息子の結婚、孫の誕生、家の新築と多忙な4年間でした。

そしてミカの会の10周年にあたり感謝状などいただき、何で私が・・・と言う思いです。

私などよりもっと会に貢献されている方が大勢いられる事と思いますが素直に感謝してこれからもネパールの子供達の為に少しでも力になればと思い、裏方で頑張って行きたいと思っています。

10周年のイベントも無事終わり役員の皆様ほんとうにお疲れ様でした。

創立十周年を迎えて思うこと

小林 公子

八月二十七日 ミカの会の創立十周年記念行事が盛大に行われましたが、私にとっては青天の霹靂というか、泰山鳴動しているという状態での感謝状を戴きました。

ミカの会の皆様は皆優秀な方達の集まりだと常々思っておりますから、いつも後についてお世話になっている者にとっては、おこがましいと云うよりは恥ずかしい気持ちで一杯です。

家に帰って改めて「仏塔の目 ミカ」の大きな写真とその中に感動的な美しい文章を目にして、一層その感を深めました。

近頃は、何をやるにも億劫で忍耐力、記憶力、思考力、行動力等々、すべて衰えてきたので、もう何も出来ない、や～めた。と思った時、遠い昔の子供の私に母の言葉が聞こえて来ました。「なせばなる、なさねばならぬ、なにごとくも、ならぬは人のなさぬなりけり」と。

そんな訳で最後になってしまいました。やっぱりもう少し頑張らねばならぬ、やらねばならぬと思った事でした。

ネクタイのない異文化ヘスタート

篠原 功

現役最後の大阪出張帰りで帰宅早々、着替えて汗を拭きふき会場に入った。

受付で突然「先日はお疲れ様でした」と、今村さんの奥様にやさしく歓迎の言葉を掛けられホッとした。開会時間に若干遅れて会場に入ったところ、突然、ネクタイのない異文化社会に飛び込んだ感じを受けた。それは作務衣姿の理事長さんが挨拶の最中であつたので、空いている席に座り話に耳を傾けた。

やさしい眼差しで語りかけるように話されるお姿を拝見して自然に話に吸い込まれていった。気持ちが和み「ミカの会」のボランティア活動の一端を目の当たりに見た。今まで型にはまった挨拶の多い文化と違う式典の内容に触れ軽いカルチャショックを受けた。

ネパールからお見えになったといわれるラマさんの流暢な日本語の挨拶は、原稿も見ないで今まで歩んできた思い出や、「ミカの会」への御礼とこれからの思いを語っていた。インパクトがあり、新鮮さを感じた。その輝いた眼は、会場に飾られてある写真のネパールの少女の眼同様きれいな眼が深く印象的であった。

感謝状を贈呈する理事長は、10年の間にお世話になった方々への一人一人に心温まる感謝のお言葉を添えてお渡しするお姿を拝見して感銘を受けた。多くの活動の中でも特に感心させられたのは、「年金」を受け取る毎に浄財を提供し続けた方のご紹介を聞いて何か胸の熱くなるものを感じたのは私だけではなかったのではないかと。理事長のご紹介のお言葉に「自分ができることを実践する」、まさにボランティアの真髄を目の当たりにして、自然に拍手が大きくなっていったのを今でも思い出す。

「自分で何が出来るだろうか？」自問自答しながら多少の不安をもって会場に入った時の気持ちは「自分で出来ることをしよう」と気持ちが落ち着いていくのがわかった。

民族衣装を纏った司会者が「五七五」でユーモアあふれる10名のメンバーが紹介され、入れ替わり1年ごとの足跡について言葉を噛み締めながら紹介している姿を見て感心した。会員一人一人の手作りの式典であり、会員のための式典である。会場も一体となりホットな雰囲気作り上げられていくのがわかった。

二部のパーティーが始まる合間に事務局長の大谷氏にご挨拶して、会場に展示してある10年の足跡を拝見した。90歳のご高齢の大石さんは今年も「第10次教育支援の旅」に行かれる。「自分の眼(ミカ)で確かめ体験する」ことの大切さを心強い張りのある声で私に支援の旅への参加のお誘いを頂いた。バイタリティーなお姿を見てエネルギーを感じた。

神秘の国ネパールのヒマラヤの山々に響き渡るリズムカルな笛の音色と躍動感のある太鼓の響きが会場の雰囲気を盛り上げ、会員の有志による合唱もあり、一挙に会場ボルテージは上がり会員の明るい笑顔が印象的であり、早くもあの輪の中に入っている衝動に駆られた。

今日、一歩行動したことで「ミカの会」のメンバーに触れ合えることが出来、ネクタイのない社会、形式に捉われないホットな雰囲気の中で、背伸びしないで自分の出来ることをする。まさにボランティア活動のスタートに立ち、異文化交流に一歩前進した。これからは自分で出来ることをさせて頂くために参加したいと思っています。皆様お疲れ様でした。感謝、ありがとうございます。

ミカの会と私の10年

山下 繁憲

1998年当時ミカの会の斉藤会長(現理事長)と始めてネパール、ルンビニの仏教サミットに参加しました。そこで案内、通訳をしてくれたのが好青年ラマさんとの初めての対面でした。仏教サミット終了後ミカの会の支援している学校や村々を案内してもらいました。

ルンビニは11月でも日中は30度もあり暑い。手を洗いたいと思っても水が無い。飲み水はミネラルウォーターしかない。井戸水は地下5から10mでも湧いてくるが、あまり良い水でなく、50m以上掘らないと良い飲料になる水は出ないそうだ。(なんとかラマさんをお願いして1999年に井戸をプレゼントすることが出来ました。)

カトマンドウに戻り妹のジャンモさんに逢う事が出来ました。その時ジャンモさんは医者になりたい、日本に行ってみたくて話してくれました。(1999年来日、そして現在立派な医者として活躍中)

初めてネパールを訪れた翌年1999年11月。八王子の山の会のメンバーと私達夫婦、総勢20名でヒマラヤの山々を見に行きました。案内をラマさんをお願いし、ポーター、キッチンなど総勢50名で3泊4日カリンチョラクトレッキングを楽しみました。その後残った8名でポカラを経由して再びルンビニに。そこには前年ラマさんをお願いしてあった井戸が立派に出来ていました。私達も手を洗い、水を飲むことも出来ました。村の人々もポリタンクを持って水を汲みに来ています。思わずナマステ!!!

これからも会員の皆様と共にバザーやイベントにとネパールの為に頑張りたいと思っています。教育支援の旅にも参加します。

第9回ネパール教育支援ボウリング大会

日時：10月18日(水) 午後6時集合

会場：町田ボウリングセンター(千寿閣)

参加料：¥3000

ボウリング愛好者により継続されているチャリティボウリング大会です。会員の皆様の参加をお待ちしています。(要事前申し込み)



焼きそばの記

青沼 義信

ミカの会特製焼きそば”は、昨年、食通である今村副理事長によって開発され、ラマさん来日歓迎パーティにて初お披露目、その後、鼓だぬき会のチャリティコンサートを皮切りに各イベントに登場、大の人気食品として“ネパール風味ハッシュドポテト”や“チャ”と共にネパール教育支援の重要な資金源の一翼を担っています。

考案・導入されただけあって、今村さんの焼きそば製造の手さばきは、余人を近づけぬ？ものがあり、ただただ傍観するしかなかったのですが、今村さんの年齢を考えるとそのまま甘えていて良いのだろうか？と・・・。
今年度最初のイベントは“相模原さくらまつり”だがそれまでにと、弟子入りを心に決めているものの弟子入りを申し入れて果たしてやれるだろうか？作っても売れなかったらどうしようか？とか・・・。

4月1日相模原さくらまつり当日が来て、材料はあるが師匠である今村さんが所用で来られない。
頭に入っている見様見真似を实践するしかない！そばは10人前入れれば良いがキャベツ・肉の分量は？見様見真似だけでは分らず“この位でいいか”と適当にちょっと多めに入れたら、師匠婦人から“多すぎます！”と注意され、案の定終盤には肉の不足をきたす羽目になってしまった。

腕は疲れてくるし肉は少なくなるし、見るに見かね小林一さんが交代してくれ、誰かが肉の買出しに走ってくれて何とか切り抜けることが出来た。

私の焼きそばデビューは、師匠の居ぬ間に果たしてしまっただけで、自分としては反省しきりのデビューであった。
2日目売れ行きが今いち。敵情視察によれば250円の店があると言う。午後になり売れ残りが出る？が心配になっていたところへ理事長来店。協議の結果250円にプライスダウン。“特別価格250円！”と理事長自ら店頭で客引きの結果、3時までに完売となり、めでたしめでたしで今年の相模原さくらまつりは終わった。

相模原さくらまつりから1週間後の4月8日から町田さくらまつりが始まった。
価格は初めから250円に設定、相模原の経験を生かす絶好の機会とばかり、焼きそば係りを買って出たのは良いのだが、今度は前の店が200円で売り始め行列が出来ているのに、こちらは閑古鳥。なんてこった！
商売仁義に欠ける奴らだ、と怒ってみても大人気ない。

大盛り焼きそば”と叫んでみても50円の差には敵わない。ついに涙を吞んで200円にコストダウンし、何とか完売にこぎつけることが出来た。50円の重みをつくづく感じたさくらまつりであった。
相模原・町田さくらまつり・栄フェスタに参加の皆さんお疲れさま！

秋のイベントが目白押しです。多くの会員の皆さんに協力を頂いた栄通りフェスタを皮切りに9月10月11月は怒涛のようなイベントが目白押しです。会員の積極的なご協力をお待ちします。ご協力頂ける方は今村事業担当副理事、又は各イベント担当に一報ください。

2006年秋活動スケジュール

9/15～16	橋本高校文化祭	担当	佐藤富美子会員
10/5～15	中間調査	担当	加藤副理事長 大谷理事 佐藤会員
10/7～8	まちだカーニバル大道芸	担当	和田理事
10/14～15	Nepal in まちだ作品展	担当	今村副理事長
10/18	チャリティーボウリング	担当	
10/22	さがみはら国際交流フェスタ	担当	青沼理事
11/4	まちだボランティア祭夢広場	担当	坂副理事長
11/4～5	職業能力開発総合大学バザー	担当	中野理事
11/16～27	第10次教育支援の旅	担当	理事長以下13名参加
11/18～19	横浜国際フェスタ	担当	松浦理事

【編集後記】

まずはミカの会10周年記念式典が無事に終了しました。ほっとしました。ミカの会らしい素晴らしい式典だったと思います。10年の歩みを見て本当に感激しました。ネパール音楽の演奏も素晴らしかった。準備のチームワークはもっと素晴らしかった。間もなく中間調査そして第10次教育支援の旅、秋のバザーラッシュと続きます。ゆっくりながら商品の吟味、開発、販売管理も進みつつあります。これからの10年さらに密度の濃い支援を継続しようではありませんか。涙の数ほど幸せになれるとすれば、恥ずかしながらミカの会入会以来何度も涙することがありましたので、きっと私は幸せになれるでしょう（笑わないで！）高齢化が進む我が会ですが〇〇石さん、〇野さん、〇塚さんのようにいつまでも元気で、笑顔でありたいものです。さあ重大な任務と重たいカメラを担いで中間調査に行くぞ！ネパールからブログで発信します。S.K